

第1回沖代作業部会(わいわいサミット)議事録

開催日時: 令和8年7月2日 18時～19時30分

開催場所: 沖代公民館 研修室

グループ	A	B	C	D
参加者数	5名	5名	3名	3名

- 地域福祉計画および地域福祉活動計画の策定:
事務局より、中津市における「わいわいサミット」の開催目的として、地域福祉計画と地域福祉活動計画の2つの計画策定が説明された。
- 地域福祉計画は行政による施策目標を定めた法的な計画であり、地域福祉活動計画は住民やボランティア、社会福祉協議会などが主体となり、市内15の地区ごとに具体的な目標や行動を決定する実践的な計画であると説明。これらは、高齢化や希薄化した地域関係により孤立する住民の問題に対処し、誰もが安心して暮らせる地域社会を構築するために今年度10月頃までの完了を目指して話し合いが持たれる。
- グループワークの趣旨説明と自己紹介:
事務局より、作業部会の進め方として、参加者が居住地域の自慢や個人的な体験を共有する形式が提案され、正解や間違いのない自由な意見交換が推奨された。参加者はテーブルごとに自己紹介を行い、居住地域の魅力や自身の活動について発表することとなった。
- 参加者からは、豊かな自然(海や山)、地元グルメである唐揚げ、おしゃれなカフェの増加、そして小さくとも魅力的なスポットが点在しているといった意見が挙げられた。
- グループワーク①
参加者が住んでいる地域で「いいな」と思うものや場所について、「花」をモチーフにしたカードに書き出す作業を促した。参加者は個々人で2分間思考を巡らせ、各自の思いや誇りに思う点を書き出した。
- 参加者は個々人で書き出したカードをグループ内で共有し、模造紙に貼り付ける作業を行った。この過程で、他者の意見を聞きながら新たな気づきを得たり、自身のカードを追加したりして、グループ全体で地域の魅力を可視化した。
- 他グループとの共有:
事務局の促しにより、各参加者は他グループが提示した意見を閲覧し、自身の考えに追加や修正を加える時間が設けられた。他の地区で行われている特色ある活動などが共有され、地域資源についての新たな気づきが促された。

- 子供への挨拶が定着している点、防犯や見守り活動の存在、総合支所や公民館といった避難場所の確保、医療機関の多さ等が挙げられた。
- グループワーク②:
「現時点での地域の良いところ」の確認に続き、グループワーク②では「これからの地域」を考えることを説明した。グループワーク②のテーマとして「自身が住みたい、住んで良かったと思える地域とはどのような地域か」を提示した。参加者は、現在の地域の改善点や理想の姿について話し合い、そのアイデアを黄色いリング型の付箋に書き出す作業を行った。
- 住みたい地域をイメージする作業が行われ、参加者は住民が気軽に集まれる場所の重要性やコロナ禍を経て希薄化した住民同士の交流の場を再構築し、互いに協力できる関係性を築くことの必要性が共有された。また若い世代や新しい住民に向けて、地域に住むメリットを分かりやすく伝えることも重要であると話し合われた。
- 参加者は、近隣に住む住民の構成について、幼児から学生、保護者、高齢者（元氣な層と支援が必要な層や独居の区別等）、障害を持つ人（ろう者、難聴、車椅子の人、認知症等）、外国籍の住民、転勤族、妊婦、ヤングケアラーなど、10種類以上のカテゴリーを挙げ、多様な住民の存在を確認した。
- 先ほど挙げた多様な住民にとって住みやすい地域を想像し、意見を出し合った。具体的には、バリアフリー化の推進、道幅が狭い箇所の改善といった都市計画の見直しや、学生が遊べる場所の確保などが提案された。また、高齢者が活躍できる場や、いつでも気軽に相談できる環境を作ることが重要であると議論された。
- 今回指摘された課題（少子高齢化や交流不足など）は特定の地域に限られたものではなく、全国の地方自治体に共通する課題であると指摘した。また、現在の地域環境に対して一定の満足感を持つ意見がある一方で、将来に向けた持続可能性やコミュニティの改善の必要性が認識された。
- LGBTQといった多様な性的指向を持つ人々の存在を考慮に入れた地域づくりの必要性が提言された。また、障害を持つ住民、特に聴覚障害を持つ人への支援として、災害時の情報伝達における視覚的な補助の重要性が議論された。加えて、単身者や高齢者が孤立しないよう、交流の場として「食堂」のような場所を設けるアイデアが共有された。
- 事務局は、今回の作業の終了を宣言し、今後は掲示された「こんな地域にしたい」という目標を実現するために、具体的に必要な取り組みや行動について議論していく方針を示した。